

幼稚園教諭に求められる音楽的資質 —保育現場と学生の比較調査をもとに—

羽根田 真 弓

Mayumi HANEDA : Survey Analysis of Musical Abilities Requisite for Kindergarten Teachers
—An Investigation of Junior College Students in the Early Childhood
Education Department and Kindergarten Teachers—

保育者養成における音楽教育は、保育者を目指す学生の音楽的資質の向上を目的としてきた。しかし依然として保育現場からは学生の益々の音楽的資質の向上が求められている。そこで幼稚園教諭に求められる音楽的資質の向上を具体化していくための手がかりとして、幼稚園現場と幼稚園教諭志望学生に対して音楽的資質に対する意識調査を実施した。比較検討の結果、幼稚園では学生の音楽的資質を強く求めているのに対し、学生の音楽的資質に関する意識が低く、両者の間に大きなギャップがあることが明らかにされた。

キーワード：音楽的資質 ピアノ演奏技術習得 うたうこと 歌遊び・手遊び

1 問題と目的

本研究の目的は、保育現場である幼稚園と保育者を
目指す学生による意識調査をもとに、幼稚園教諭
に求められる音楽的資質について比較検討すること
である。

平成10年には教育職員免許法が改正され、さらに
保育者養成の見直しがなされた結果、保育者養成課
程における音楽科目は削減された。従来より、保育
者養成における音楽教育では、学生の音楽的資質の
向上を目的として、さまざまな論議のうえに多種多
様な実践を展開してきた。その実践結果がまだ得ら
れていないにも拘らず、関連する音楽諸科目が削減
されてしまったことは、保育者の音楽的資質の向上
に対応できない問題である。

一方、幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協
力会議においても「幼稚園教員の資質向上につい

て」¹⁾が報告され、この報告書をもとに幼稚園教員資
質向上策が検討されつつある。この調査研究では、
幼稚園教員の資質を、幼児教育に対する情熱と使命
感に立脚した、知識や技術、能力の総体ととらえて
いる。そして、その向上のための課題と展望、今後
の方向性および方策を検討内容としている。

すなわち、保育者養成の音楽科目担当者は幼稚園
教員の音楽的資質向上を目的として再検討しなけれ
ばならない。言い換えれば、幼稚園教諭の専門的資
質向上を図るための音楽教育の方向性が問われてい
るのである。

以上の問題意識のもと、筆者は今後の保育者養成
における音楽教育の根本的な問題提起として、幼稚
園と幼稚園教諭を目指す学生に幼稚園教諭に求めら
れる音楽的資質に対する意識調査を実施した。学生
の理想とする保育者像における音楽的資質への意識
を把握し、さらには幼稚園が学生に求める音楽的資
質の実態を明らかにする。これらの結果をもとに比

較検討および分析を行う。

2 方法

2.1 調査時期

平成16年2月

2.2 調査対象

2.2.1

幼稚園は福岡県，鳥根県，鳥取県，岡山県，香川県，兵庫県，大阪府，神奈川県，東京都に所在する公立および私立幼稚園85ヶ所から有効回答を得た。

2.2.2

学生は鳥取県，愛媛県，岡山県に所在する短期大学において幼児教育を専攻し，幼稚園教諭2種免許状と保育士資格取得が可能である2年生232人である。なお，今回は2年間の養成課程を履修し，教育実習および保育実習での現場体験を行った2年生を対象者とした。

2.3 質問紙

質問項目は，次の7項目である。

幼稚園教諭の音楽的資質の重要性，ピアノ演奏技術の必要性，うたうことの重要性の3項目を「とても重要である」から「重要ではない」の5件法で回答を求めたうえ，さらに筆者が作成した理由項目の

中から3項目以内を抽出する方法で回答を求めた。

さらに，音楽理論・楽典，歌遊び・手遊びなどの実践力，リズム・身体表現力，鑑賞能力の4項目においても同様に5件法で回答を求めた。（添付資料1・2）

2.4 手続き

幼稚園は郵送にて調査および回答を依頼した。学生はそれぞれの短期大学の音楽科目担当者に配布および回収を依頼した。なお，回答はすべて無記名記述であった。

3 結果

3.1 各項目別集計

3.1.1 幼稚園教諭の音楽的資質の重要性

3.1.1.1 幼稚園の回答結果

5段階評定における平均値は4.57であった。段階別では5段階が50ヶ所，4段階が32ヶ所，3段階が2ヶ所であった。その割合は図1で示すとおりである。理由項目の回答結果は表1のとおりであり，図2は項目別集計のパーセンテージを示している。

3.1.1.2 学生の回答結果

5段階評定における平均値は3.77であった。段階別では5段階が34人，4段階が101人，3段階が82人，2段階が1人であった。その割合は図3で示す

表1 幼稚園の音楽的資質を重要とする理由項目と回答数

	5段階	4段階	3段階	合計
子どもの発達には歌が重要である	44	22	2	68
子どもの歌唱指導のため	6	4	0	10
子どもの歌唱能力の発達のため	1	1	0	2
子どもの歌唱行動を促すため	3	4	1	8
子どもの身体表現活動を促すため	22	16	1	39
子どものリズム感の発達を促すため	22	12	0	34
子どもの音楽体験を充実させるため	25	19	1	45
子どもにとって楽器経験が必要であるため	8	2	0	10
伴奏楽器等の演奏が必要であるため	7	2	0	9
あそび歌の実践のため	5	2	0	7
子どもとのコミュニケーションを図るため	12	7	1	20
その他	1	3	0	4

表2 学生の音楽的資質を重要とする理由項目と回答数

	5段階	4段階	3段階	2段階	合計
子どもの発達には歌が重要である	14	37	24	0	75
子どもの歌唱指導のため	3	10	9	0	22
子どもの歌唱能力の発達のため	5	18	11	0	34
子どもの歌唱行動を促すため	6	20	10	0	36
子どもの身体表現活動を促すため	8	28	29	0	65
子どものリズム感の発達を促すため	19	48	46	0	113
子どもの音楽体験を充実させるため	18	46	39	0	103
子どもにとって楽器経験が必要であるため	5	9	3	1	18
伴奏楽器等の演奏が必要であるため	1	1	2	1	5
あそび歌の実践のため	6	21	20	0	47
子どもとのコミュニケーションを図るため	17	61	41	1	120
その他	0	0	2	0	2

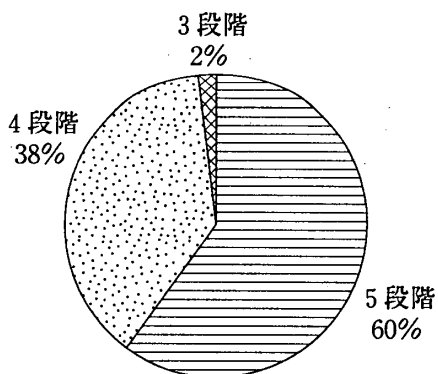


図1 幼稚園の音楽的資質に対する回答の割合

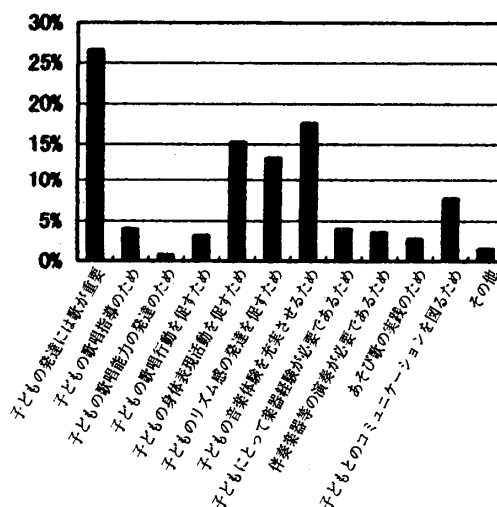


図2 幼稚園の音楽的資質を重要とする理由項目別パーセンテージ

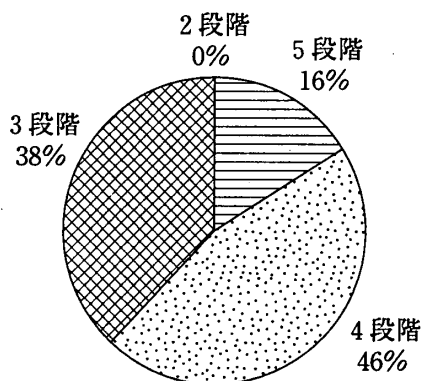


図3 学生の音楽的資質に対する回答の割合

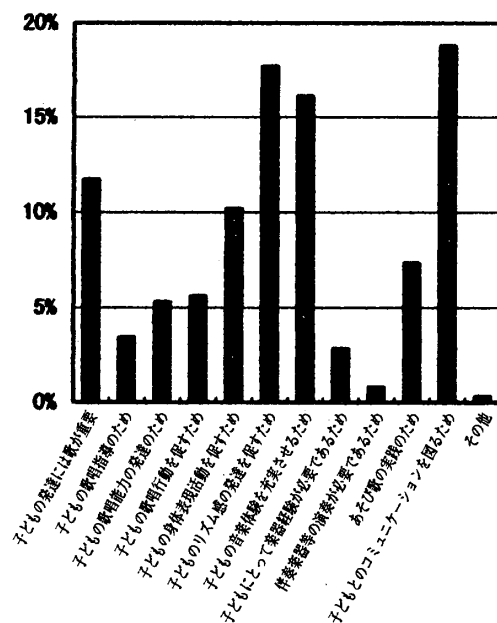


図4 学生の音楽的資質を重要とする理由項目別パーセンテージ

とおりである。理由項目の回答結果は表2のとおりであり、図4は項目別集計のパーセンテージを示している。

3.1.2 ピアノ演奏技術習得の必要性

3.1.2.1 幼稚園の回答結果

5段階評定における平均割合は4.27であった。段階別では5段階が32ヶ所、4段階が43ヶ所、3段階が9ヶ所であった。その割合は図5で示すとおりである。理由項目の回答結果は表3のとおりであり、図6は項目別集計のパーセンテージを示している。

3.1.2.2 学生の回答結果

5段階評定における平均値は4.09であった。段階別では5段階が82人、4段階が91人、3段階が45人、2段階が5人、1段階が2人であった。その割合は図7が示すとおりである。理由項目の回答結果は表4のとおりであり、図8は項目別集計のパーセンテージを示している。

3.1.3 うたうことの重要性

3.1.3.1 幼稚園の回答結果

5段階評定における平均値は4.52であった。段階別では5段階が49ヶ所、4段階が30ヶ所、3段階が5ヶ所であった。その割合は図9で示すとおりである。理由項目の回答結果は表5のとおりであり、図10は項目別集計のパーセンテージを示している。

3.1.3.2 学生の回答結果

5段階評定における平均値は4.67であった。段階別では5段階が162人、4段階が49人、3段階が12人であった。その割合は図11で示すとおりである。理由項目の回答結果は表6のとおりであり、図12は項目別集計のパーセンテージを示している。

3.1.4 音楽理論・楽典の重要性

3.1.4.1 幼稚園の回答結果

5段階評定における平均値は3.27であった。段階別では5段階が1ヶ所、4段階が25ヶ所、3段階が

表3 幼稚園のピアノ演奏技術習得に対する理由項目と回答数

	5段階	4段階	3段階	2段階	合計
幼稚園設置基準による	3	6	1	0	10
ピアノ演奏技術習得が一般的である	7	6	1	0	14
ピアノ伴奏は必要不可欠である	15	22	2	0	39
伴奏にはピアノが効果的である	14	22	3	0	39
ピアノ伴奏がつけられているため	4	6	0	0	10
ピアノは効果的な楽器である	28	35	6	0	69
ピアノは興味・関心のある楽器である	9	10	0	0	17
ピアノはポピュラーな楽器である	10	9	1	0	20
保育室に設置してあるため	5	5	0	0	10
その他	1	4	0	0	5

表4 学生のピアノ演奏技術習得に対する理由項目と回答数

	5段階	4段階	3段階	2段階	1段階	合計
幼稚園設置基準による	8	14	5	0	0	27
ピアノ演奏技術習得が一般的である	18	18	2	0	0	38
ピアノ伴奏は必要不可欠である	24	31	11	1	0	67
伴奏にはピアノが効果的	37	40	27	4	2	110
ピアノ伴奏がつけられているため	24	29	10	1	2	66
ピアノは効果的な楽器である	43	38	28	3	1	113
ピアノは興味・関心のある楽器である	37	38	26	4	0	105
ピアノはポピュラーな楽器である	45	26	19	1	0	91
保育室に設置してあるため	8	13	5	1	1	28
その他	2	7	2	0	0	11

54ヶ所、2段階が4ヶ所であった。その割合は図13が示すとおりである。

3.1.4.2 学生の回答結果

5段階評定における平均値は3.0であった。段階別では5段階が11人、4段階が45人、3段階が114人、2段階が51人、1段階が8人であった。その割合は図14が示すとおりである。

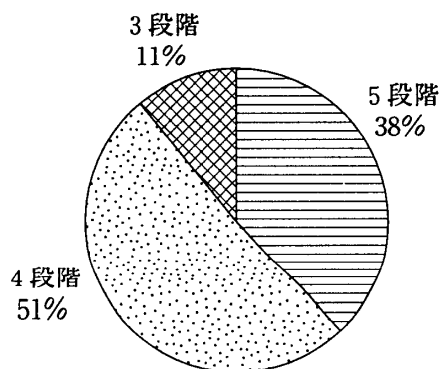


図5 幼稚園のピアノ演奏技術習得に対する回答の割合

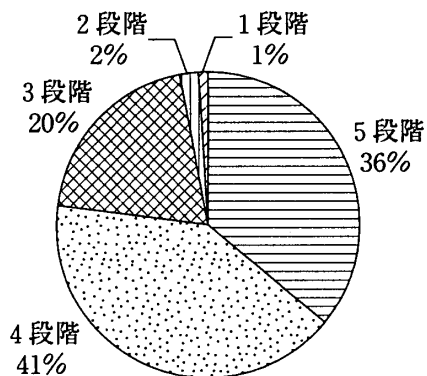


図7 学生のピアノ演奏技術習得に対する回答の割合

3.1.5 歌遊び・手遊びなどの実践力

3.1.5.1 幼稚園の回答結果

5段階評定における平均値は4.54であった。段階別では5段階が52ヶ所、4段階が25ヶ所、3段階が

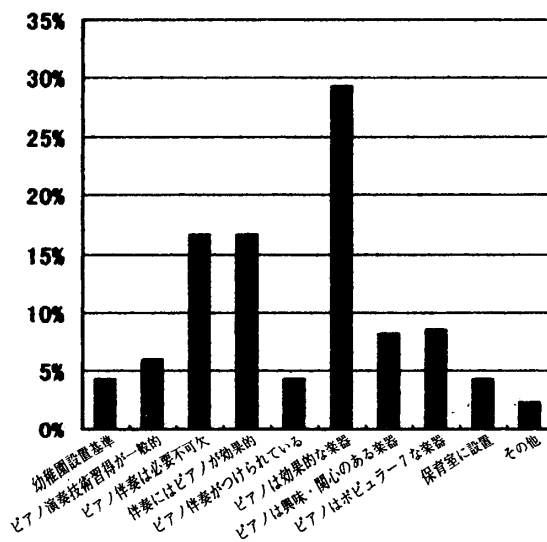


図6 幼稚園のピアノ演奏技術習得に対する理由項目別パーセンテージ

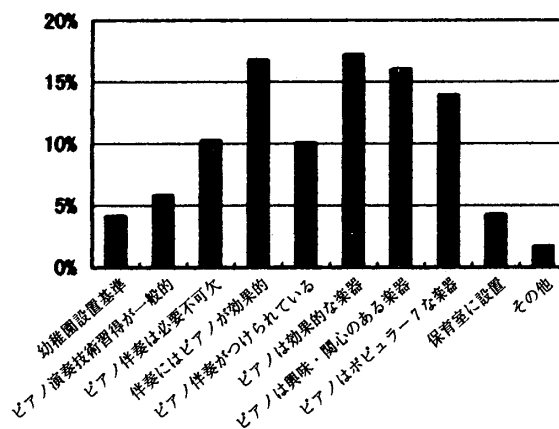


図8 学生のピアノ演奏技術習得に対する理由項目別パーセンテージ

表5 幼稚園のうたうことを重要とする理由項目と回答数

	5段階	4段階	3段階	合計
子どもの成長発達には歌が重要である	37	19	2	58
歌唱行動を促すため	0	8	1	9
身体表現活動を促すため	25	13	5	43
音楽経験を豊かにするため	29	16	0	45
言語発達を促すため	7	3	2	12
感情を豊かにするため	42	25	5	72
たくさんの歌を教えるため	1	2	0	3
その他	0	0	0	0

7ヶ所であった。その割合は図15が示すとおりである。

3.1.5.2 学生の回答結果

学生の5段階評定における平均値は4.68であった。段階別では5段階が170人、4段階が45人、3段階が13人、2段階が1人であった。その割合は図16が示すとおりである。

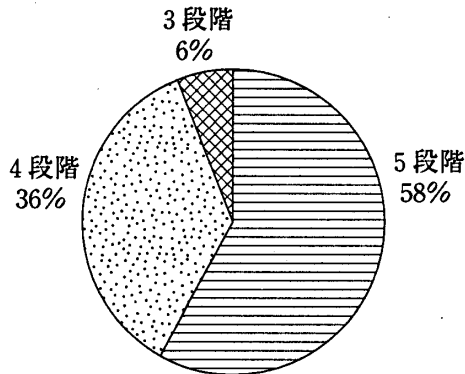


図9 幼稚園のうたうことの重要性に対する回答の割合

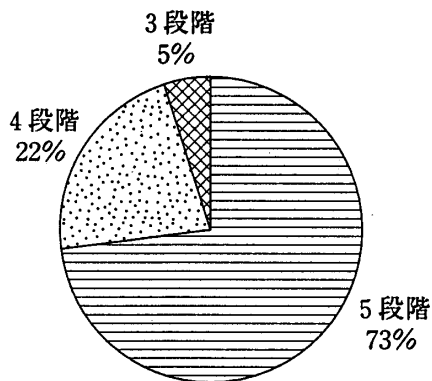


図11 学生のうたうことの重要性に対する回答の割合

3.1.6 リズム・身体表現力の重要性

3.1.6.1 幼稚園の回答結果

5段階評定による平均値は4.54であった。段階別では5段階が47ヶ所、4段階が35ヶ所、3段階が2

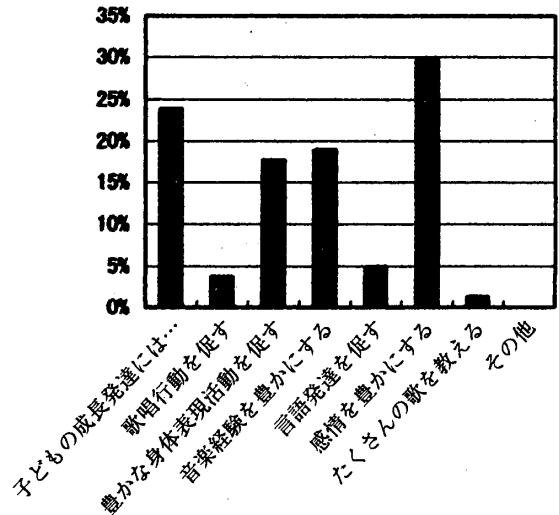


図10 幼稚園のうたうことを重要とする理由項目別パーセンテージ

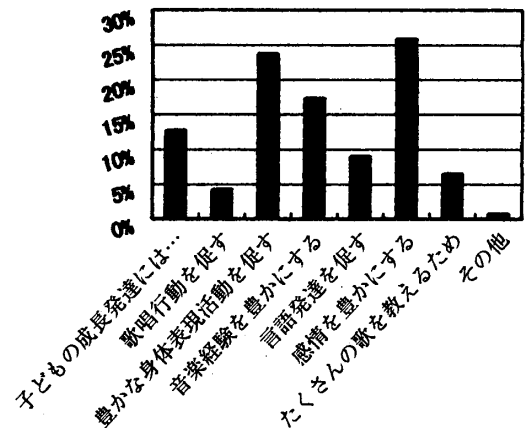


図12 学生のうたうことを重要とする理由項目別パーセンテージ

表6 学生のうたうことを重要とする理由項目と回答数

	5段階	4段階	3段階	合計
子どもの成長発達には歌が重要であるため	66	18	0	84
歌唱行動を促すため	22	4	2	28
豊かな身体表現活動を促すため	112	38	8	158
音楽経験を豊かにするため	79	27	9	115
言語発達を促すため	46	11	3	60
感情を豊かにするため	129	33	10	172
たくさんの歌を教えるため	26	14	3	43
その他	5	0	0	5

ケ所であった。その割合は図17が示すとおりである。

3.1.6.2 学生の回答結果

5段階評定による平均値は4.53であった。段階別では5段階が139人、4段階は72人、3段階は18人であった。その割合は図18が示すとおりである。

3.1.7 鑑賞能力

3.1.7.1 幼稚園の回答結果

5段階評定による平均値は3.75であった。段階別では5段階が8ヶ所、4段階が49ヶ所、3段階が25ヶ所、2段階が2ヶ所であった。その割合は図19が示すとおりである。

3.1.7.2 学生の回答結果

5段階評定による平均値は3.78であった。段階別では5段階が40人、4段階は108人、3段階は72人、2段階は8人、1段階は1人であった。その割合は図20が示すとおりである。

以上、幼稚園と学生の各項目別の平均値を表すと図21のとおりである。

3.2 平均の有意差の分析結果

3.2.1 音楽的資質の重要性

t検定の結果、幼稚園と学生の平均値の差は有意であった。 $(t(300)=9.36, p<.01)$ したがって、幼稚園教諭の音楽的資質に対する意識は学生より幼稚園の方が圧倒的に高い。

3.2.2 ピアノ演奏技術習得の必要性

t検定の結果、幼稚園と学生の平均の差は有意であった。 $(t(307)=1.75, p<.05)$ したがって、ピアノ演奏技術習得に対する意識は、学生より幼稚園の方が高い。

3.2.3 うたうことの重要性

t検定の結果、幼稚園と学生の平均値の差は有意であった。 $(t(305)=1.99, p<.05)$ したがって、

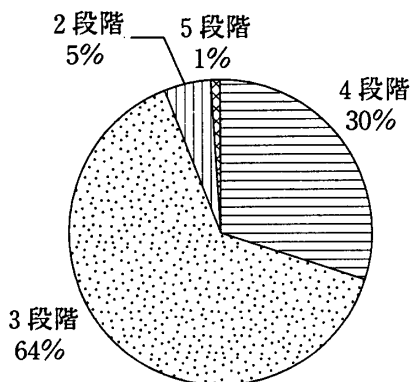


図13 幼稚園の音楽理論に対する回答の割合

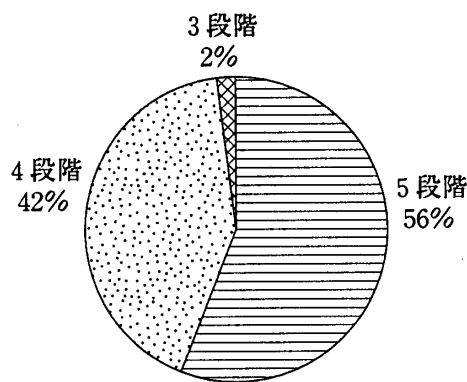


図15 幼稚園の歌遊び・手遊びに対する回答の割合

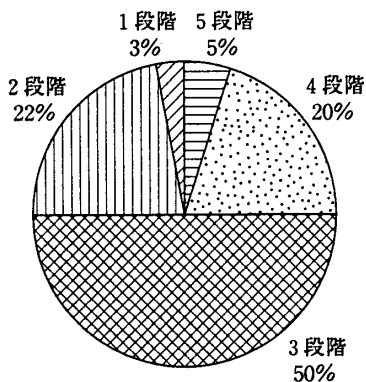


図14 学生の音楽理論に対する回答の割合

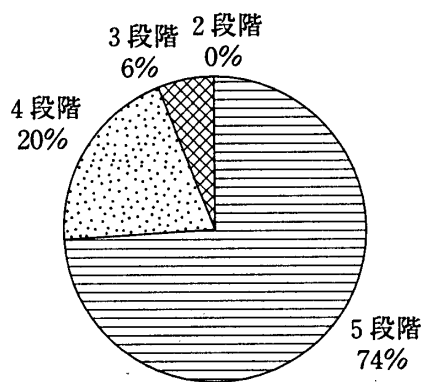


図16 学生の歌遊び・手遊びに対する回答の割合

うたうことに対する意識は幼稚園より学生の方が高い。

3.2.4 音楽理論・楽典の重要性

t検定の結果、幼稚園と学生の平均値の差は有意であった。(t(311)=2.68, p<.01) したがって、音楽理論・楽典に対する意識は学生より幼稚園の方が高い。

3.2.5 歌遊び・手遊びなどの実践力

t検定の結果、幼稚園と学生の平均値は有意であった。(t(311)=1.80, p<.05) したがって、歌遊び・手遊びに対する意識は幼稚園より学生の意識が高い。

3.2.6 リズム・身体表現力の重要性

t検定の結果、幼稚園と学生の平均値の差は有意でなかった。(t(311)=0.09, p<.10)

3.2.7 鑑賞能力

t検定の結果、幼稚園と学生の平均値の差は有意でなかった。(t(311)=0.28, p<.10)

4 考察および論議

本研究の調査目的は、保育現場である幼稚園と保育者を目指す学生の音楽的資質に対する意識の比較検討である。

その結果、幼稚園では、すべての質問項目のなかでも音楽的資質の重要性を示す平均値が最も高く4.57であった。続いて歌遊び・手遊びの重要性とリズム・身体表現力の対する平均値が4.54であり、うたうことへの重要性も4.52であることから音楽知識や技術、能力を学生に強く求めていることが示唆される。したがって、保育現場である幼稚園は幼稚園教諭を目指す学生に音楽的資質を求めており、学生の音楽的資質の向上を図る保育者養成の音楽教育の現状課題と合致していることが指摘できる。

歌遊び・手遊び、リズム・身体表現力、うたうことの重要性は幼稚園の項目別平均値で示されている

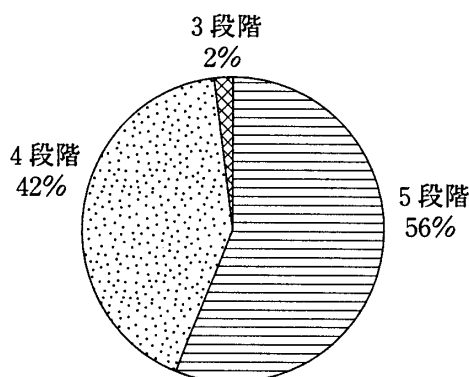


図17 幼稚園のリズム・身体表現力に対する回答の割合

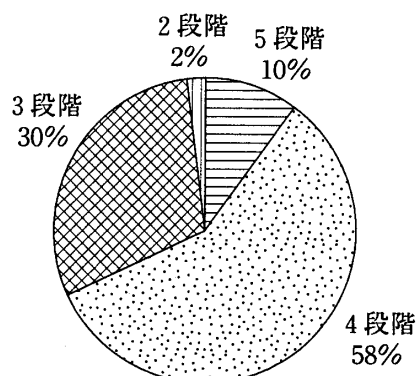


図19 幼稚園の鑑賞能力に対する回答の割合

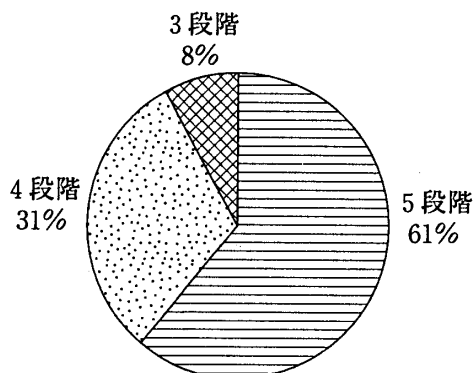


図18 学生のリズム・身体表現力に対する回答の割合

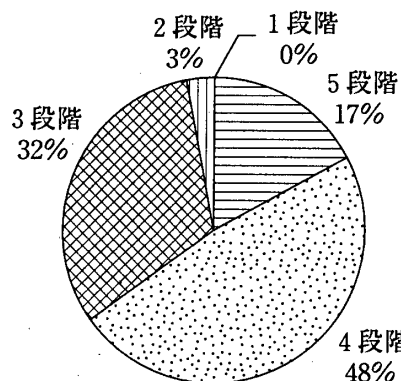


図20 学生の鑑賞能力に対する回答の割合

ように専門性としての実践力が求められていることが指摘できるが、ピアノの演奏技術に対する意識は平均値のうえではこれらの項目より低い結果が示された。しかしながら、幼稚園のピアノ演奏技術習得の必要性に対する理由項目を見ると「ピアノは効果的な楽器である」「ピアノ伴奏は必要不可欠である」「伴奏にはピアノが効果的である」とする回答が多く、ピアノの重要性が圧倒的に捉えられている傾向が見られる。したがって、ピアノ演奏技術習得は保育現場によって必然的に求められていると言い換えることができる。さらに、幼稚園教諭採用時においてもピアノ演奏課題が一般的であることにも整合している。

このように、幼稚園では音楽的資質、歌遊び・手遊び、リズム・身体表現力、うたうこと、およびピアノ演奏技術習得に対する平均値はすべて高く、すなわち保育現場のニーズがこれらの実践力であるとみなしていることが分かる。さらに、音楽理論・楽

典と鑑賞能力への平均値が低下傾向にあることは、理論が実践的な指導力の後回しにされていることの現われであろう。

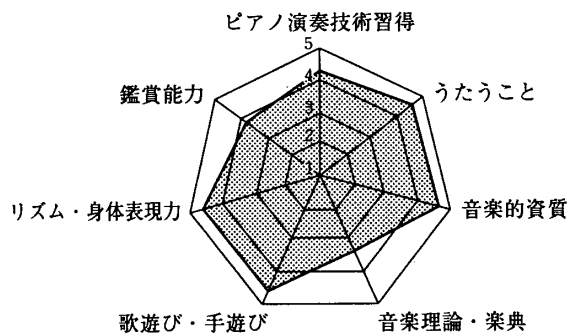
一方、学生はすべての質問項目のなかで歌遊び・手遊びの実践力を最も重要であると回答した。この項目の平均値は4.68であり、保育現場での実践力として学生がかなり意識していることが考えられる。幼稚園の調査結果においても歌遊び・手遊びの項目平均値は高いことから、現場のニーズでもあり、かつ学生がこの分野の必要性を把握しているものと判断される。

また、うたうことの重要性を示す平均値も4.67であり、歌遊び・手遊びとほぼ同じであった。しかし、ピアノ演奏技術への意識は歌遊び・手遊び、うたうこと、リズム・身体表現の3つの項目よりも低く、また、鑑賞能力、音楽的資質への意識はさらに低い傾向が見られた。

以上、学生は2年間の養成課程を履修し、教育実習および保育実習の現場体験をとおして捉えた保育者像を、歌遊び・手遊びの実践力とうたうこと、リズム・身体表現力の重要性であるとみなしている。そして、意外にもピアノの演奏技術習得に対する意識の低いことが明らかにされた。このことは「ピアノ演奏技術を必要としない」と回答した学生たちの「CDがあるからよい」「ピアノが弾けなくてもやっていける」「子どもとうたうことができればピアノの演奏技術は必要ない」といった理由からも推測できる。

しかしながら、わが国の保育現場の実態としてはピアノに依存していることは明らかである。今回の幼稚園による回答では、対象とした85ヶ所のうち79ヶ所がピアノによる伴奏を行っており、その他ではオルガンによる伴奏が2ヶ所、シンセサイザーによる伴奏が2ヶ所、不明が1ヶ所である。このようにほとんどの保育現場ではピアノによる伴奏が行われている。したがって、ピアノの演奏技術習得が求められるのは必然であり、幼稚園教諭の専門的資質として問われることも明確である。なお、今回の調査

〈幼稚園〉



〈学生〉

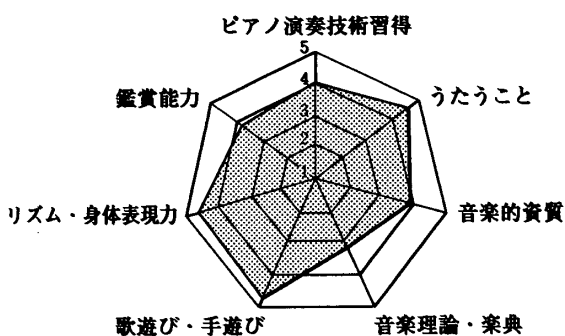


図21

でピアノとギター伴奏を行っている幼稚園は6ヶ所見られた。このように、ピアノ演奏技術習得に関しては、現場である幼稚園と学生に意識の相違があることが認められた。

学生が選択したピアノ演奏技術習得に対する理由項目では、幼稚園現場と同様に「ピアノは効果的な楽器である」「伴奏にはピアノが効果的である」「ピアノは子どもにとって興味・関心のある楽器である」「ピアノはポピュラーな楽器である」と回答しており、こうした背景には上述した保育現場の実態を鑑みた結果であると考えられる。

最後に、音楽的資質への意識に関する幼稚園現場と学生の回答を比較する。5段階評定を用いた7項目の総合平均値では、幼稚園が5.21、学生が4.13であった。また、上位群の5段階・4段階が示す割合も、幼稚園が98%、学生は62%であった。この結果からも幼稚園の方がかなり音楽的資質の向上を求めている実態が明らかである。すなわち、保育者養成の音楽教育が学生の音楽的資質を向上しなければならないことを改めて指摘している。

この音楽的資質を重要とする理由項目に関する比較分析は以下のとおりである。

幼稚園では上位群である5段階、4段階とも「子どもの成長発達には歌が重要である」という理由項目が圧倒的に多いことに着目できる。さらに「子どもの音楽体験を充実させるため」「子どもの身体表現活動を促すため」「子どものリズム感の発達を促すため」の理由項目もそれぞれ多い。一方の学生は、「子どもとのコミュニケーションを図るため」と圧倒的に捉えている。そして「子どものリズム感の発達を促すため」「子どもの音楽体験を充実させるため」という理由が示されている。

このように幼稚園は子どもの成長発達において歌が重要であるという理由をもとに音楽的資質を重要とみなし、学生は音楽的資質を子どもとのコミュニケーションを図るためとみなしている傾向を示している。つまり、学生は子どもとのコミュニケーションを音や音楽を媒介として成立させようと考え

ており、言い換えれば、直接に言語を媒介とするよりも、非言語的な手段を選択しようとしていることが指摘できる。この結果は、音楽の機能を学生が十分に理解してはいるものの、ピアノ演奏技術習得への意識とは直結できていないことが指摘できる。これは、ピアノの演奏技術習得が容易ではないことが推測できるが、同時に保育者養成の音楽教育の現状課題でもある。

そして、音楽体験を充実させるためという理由項目は幼稚園および学生とも一致しており、リズム感の発達を促すという理由項目も一致している。この結果は、リズムを音楽表現の無意識的な基礎として捉えた音楽表現の重要性を学生が理解していると考えられることができる。以上が音楽的資質に対する幼稚園と学生の意識の比較であるが、子どもとのコミュニケーションを図るための音楽的資質を学生が意識している一方で、子どもの成長発達には歌が重要とする意識も多く、以上のことから本質的には学生は保育者の音楽的資質を理解していると判断できる。

さらに学生は歌遊び・手遊びは保育者として最も重要であるとみなしていた。幼稚園においてもこれら実践力の重要性は高く示されている。したがって、これらの歌遊び・手遊びへの学生の意識は現場体験から得たことが考察できる。しかしながら、この項目およびうたうことを重要としていることは、子どもに直接教える手段を学ぶことを保育者養成の音楽教育として捉えている傾向があるのではなからうか。そのために音楽理論・楽典や鑑賞能力への関心が低い結果となったと考えられる。音楽科目の時間的削減などの問題はあがあるが、幼児の成長発達を促すために幼児理解に基づき、遊びを通して総合的に指導を行う幼稚園教諭の基盤的な専門性を養成するためには、これら理論と実践による両面からの育成が養成機関に求められるのではなからうか。

このように、今回の調査結果によって、うたうこと、歌遊び・手遊びの実践力、リズム・身体表現力およびピアノ演奏技術習得などの専門的な実践力が音楽的資質として保育現場で求められていることが

明らかにされた。一方、これらの専門性に対する学生の意識は保育現場の意識より低い結果であることも合わせて明らかにされた。このことは、養成段階の課題として受けとめなければならない結果となった。

5 今後に向けて

今回の結果を踏まえて、幼稚園教諭の音楽的資質

の向上に資する音楽教育をさらに議論することが求められる。幼稚園教諭に求められる専門性として音楽的資質を養成課程の音楽教育がどのように実践していかなければならないのか。保育現場および学生と保育者養成の連携による追究をすすめたい。

註

- 1) 「幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書」(平成14年6月24日) 文部科学省

<例>

とても重要である 5 - ④ - 3 - 2 - 1 重要ではない

とても重要である 5 - 4 - 3 - 2 - 1 重要ではない

また、その理由について、下記の項目の中から上位3つを選び○をご記入ください。

*理由

- ・子どもの発達には音楽が重要であるため ()
- ・子どもの歌唱指導のため ()
- ・子どもの歌唱能力の発達のため ()
- ・子どもの歌唱行動を促すため ()
- ・子どもの身体表現活動を促すため ()
- ・子どものリズム感の発達を促すため ()
- ・子どもの音楽体験を充実させるため ()
- ・子どもにとって楽器経験が必要であるため ()
- ・伴奏楽器等の演奏が必要であるため ()
- ・あそび歌の実践のため ()
- ・子どもとのコミュニケーションをはかるため ()
- ・その他 () 理由をご記入ください

[6] 幼稚園教諭にとって、ピアノ演奏技術は重要だと思われませんか。

<例>

とても重要である 5 - ④ - 3 - 2 - 1 重要ではない

とても重要である 5 - 4 - 3 - 2 - 1 重要ではない

また、その理由について、下記の理由の中から上位3つを選び○をご記入ください。

*理由

- ・幼稚園設置基準に基づき、必要であるため ()
- ・従来、わが国の保育者養成ではピアノ演奏技術習得が一般的であるため ()
- ・保育者にとって、ピアノ伴奏は必要不可欠である ()
- ・子どもの歌の伴奏にはピアノが最も効果的であるため ()
- ・ほとんどの子どもの歌にはピアノ伴奏がつけられているため ()
- ・保育の際、ピアノは効果的な楽器であるため ()
- ・ピアノは子どもにとって興味・関心のある楽器であるため ()
- ・保育の現場ではピアノがポピュラーな楽器であるため ()
- ・保育室にピアノが設置してあるため ()

資料1)

<アンケート用紙>

<記入方法>

- ・項目を選んでいただく設問では、当該欄に○をご記入ください。
- ・数字が書いてある設問では、<例>のように該当する数字を○で囲んでください。

<例>

とても重要である 5 - ④ - 3 - 2 - 1 重要ではない

・ご記入いただく設問では、所定欄に具体的な事柄をご記入ください。

[1] 貴幼稚園では、先生方は毎日子どもたちと歌われますか、該当項目に○をご記入ください。

- () 毎日、よく歌う
- () 時々、歌う
- () 生活の歌として歌う

[2] 貴幼稚園では、子どもたちの歌唱にどのように伴奏されますか、該当項目に○をご記入ください。

- () ピアノ伴奏をする
- () オルガン伴奏をする
- () ギター伴奏をする
- () その他の楽器で伴奏する

楽器名は具体的に何ですか：()

- () 伴奏しない
- () CD等を使用する

[3] 貴幼稚園の保育室での音楽環境についてお尋ねします。該当項目に○をご記入ください。(複数回答可)

- () ピアノを設置している
 - () オルガンを設置している
 - () その他の楽器を設置している
- 楽器名は具体的に何ですか：()

() 何も設置していない

[4] 貴幼稚園ではCD等などをよく使用されますか、該当項目に○をご記入ください。

- () よく使用する
- () 時々、使用する
- () ほとんど使用しない

[5] 次に幼稚園教諭に必要とされる音楽的資質についてお尋ねします。

幼稚園教諭にとって、音楽的資質はどの程度重要であると思われませんか。例のように該当する数字を○で囲んでください。

資料2)

アンケート

記入方法

・数字が書いてある設問では、〈例〉のように該当する数字を○でかこんでください。
 〈例〉

とても重要である 5 — 4 — ③ — 3 — 2 — 1 重要ではない

・項目を選ぶ設問では、当該箇所を○をご記入ください。

[1] あなたが理想的とする保育者像についてお尋ねします。

保育者にとって、ピアノ演奏技術習得は重要であると思いますか、〈例〉のように該当する数字を○でかこんでください。

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

その理由について上位3つを選び○をご記入ください。

*理由

- ・幼稚園設置基準に基づき、必要であるため ()
- ・従来、わが国の保育者養成ではピアノ演奏技術習得が一般的であるため ()
- ・保育者にとって、ピアノ伴奏は必要不可欠である ()
- ・子どもの歌の伴奏にはピアノが最も効果的であるため ()
- ・ほとんどの子どもはピアノ伴奏がつけられているため ()
- ・保育の際、ピアノは効果的な楽器であるため ()
- ・ピアノは子どもにとって興味・関心のある楽器であるため ()
- ・保育の現場ではピアノがポピュラーな楽器であるため ()
- ・保育室にピアノが設置してあるため ()
- ・その他 ()

理由をご記入ください

[2] 保育者にとって、「歌う」ことは重要だと思いますか、〈例〉のように該当する数字を○でかこんでください。

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

その理由について上位3つを選び○をご記入ください。

*理由

- ・子どもの成長発達には歌が重要であるため ()
- ・子どもの歌唱行動を促すため ()
- ・子どもの豊かな身体表現活動を促すため ()
- ・子どもの音楽経験を豊かにするため ()
- ・子どもの言語発達を促すため ()

・その他 () 理由をご記入ください

[7] 幼稚園教諭にとって、「歌う」ことは重要だと思われませんか、

〈例〉

とても重要である 5 — 4 — ③ — 3 — 2 — 1 重要ではない

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

また、その理由について、下記の項目の中から上位3つを選び○をご記入ください。

*理由

- ・子どもの成長発達には歌が重要であるため ()
- ・子どもの歌唱行動を促すため ()
- ・子どもの豊かな身体表現活動を促すため ()
- ・子どもの音楽経験を豊かにするため ()
- ・子どもの言語発達を促すため ()
- ・子どもの感情を豊かにするため ()
- ・子どもにたくさんの歌を教えるため ()
- ・その他 ()

理由をご記入ください

[8] 最後に、保育士を日指す学生たちに何を望まれますか、該当する数字を○で囲んでください。

*音楽理論・楽典

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

*歌遊び・手遊びなど

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

*リズム・身体表現力

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

*鑑賞能力

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

[9] その他、保育者養成の音楽教育に関してご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

*鑑賞能力

子どもの感情を豊かにするため ()
 子どもにもたくさんの歌を教えるため ()
 その他 ()
 理由をご記入ください

[5] その他, 保育者養成の音楽教育に関してご意見がありましたら, ご自由にお書きください。

[3] 保育者の音楽的資質についてお尋ねします。保育者にとって, 音楽的資質はどの程度重要であると思
 いますか。〈例〉のように該当する数字を○でかこんでください。

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

その理由について上位3つを選び○をかこんでください。

*理由

- ・子どもの発達には音楽が重要であるため ()
 - ・子どもの歌唱指導のため ()
 - ・子どもの歌唱能力の発達のため ()
 - ・子どもの歌唱行動を促すため ()
 - ・子どもの身体活動を促すため ()
 - ・子どものリズム感の発達を促すため ()
 - ・子どもの音楽体験を充実させるため ()
 - ・子どもにとって楽器経験が必要であるため ()
 - ・伴奏楽器等の演奏が必要であるため ()
 - ・遊び歌の実践のため ()
 - ・子どもとのコミュニケーションをはかるため ()
 - ・その他 ()
- 理由をご記入ください

[4] 最後に, 音楽関連科目の中で, どのような内容が最も重要であると思えますか。〈例〉のように該当す
 る数字を○で囲んでください。

*音楽理論：楽典

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

*歌遊び・手遊びなど

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない

*リズム・身体表現力

とても重要である 5 — 4 — 3 — 2 — 1 重要ではない